

阿寒摩周国立公園満喫プロジェクト



平成29年12月4日

環境省阿寒摩周国立公園
管理事務所 河野通治

阿寒摩周国立公園 満喫プロジェクト

赤字は実施済の取組

H29.8 公園名変更

火山と森と湖が織りなす原生的な自然を堪能する

(数値目標) ～ 訪日外国人利用者数 6.3万人(2015年) → 15万人(2020年) ～

特徴①

原生的な自然で過ごす「上質な時間」

眺望や居心地のよい宿泊施設、展望施設、カフェでの滞在、それぞれ特色の異なる温泉での保養など、原生的な自然の魅力を実感しながら上質な時間を過ごす



H30年夏の川湯エコミュージアムセンターへの民間カフェ導入(試行)を目指し、地元調整中



阿寒湖畔における富裕者層をターゲットとした宿泊施設の誘致に向け、地元市及び民間において検討着手



川湯温泉街の再生に向け、地元町において再整備計画を策定中(H29年度内に策定)

特徴②

原生的な自然の「新たな活用」

カヌーやトレッキング、バードウォッチングなど、原生的な自然への新たなアプローチも含めたローインパクトなアクティビティを通じ、自然の雄大さやパワー、生きもののたくましさに直接ふれる



マリモ観察ガイドツアー実施に向けて、地元関係者や研究者からなるPTを設置(H29,7)し検討を開始。H30夏以降にツアー試行開始予定



阿寒湖南岸における新たな歩道(H31整備予定)や雲海が楽しめる歩道の再整備(H29整備)など、上質な利用のための施設整備の推進



オンネトー湖岸の静かな環境を生かしたデイグランピングの導入等、個人旅行客の受入環境整備に向けた検討を開始



地域の魅力を生かしたロングトレイルの設定



サイクリングロードの設定



H29.9に日本旅行業協会とともにファムトリップを実施

特徴③

「アイヌ文化」の体感

古くから伝わるアイヌの祭事や伝統文化など、我が国の先住民族であるアイヌの文化を体感する



観光庁との連携の下、阿寒湖温泉において「アイヌアートまちなかミュージアム」を推進中



アイヌ文化を基調とした夜のデジタルアートイベントの開催(H30から)



ビューポイント

公園全体の取組



阿寒湖



オンネトー・雌阿寒岳



屈斜路湖

川湯温泉・硫黄山



摩周湖



オンネトーからみた雌阿寒岳と阿寒富士

屈斜路湖の雲海

川湯温泉

阿寒湖でのカヌーツアー

新たな魅力の地点につながる歩道

摩周第一展望台からの眺め

マリモ観察ガイドツアーの検討



- マリモ自体は日本各地に生育。
ただし、球状マリモの生育地は世界でも阿寒湖のみ
- 国の特別天然記念物に指定
- 今年で発見、命名から120年
- 水質改善により生育環境は改善したが、水草との競合が課題
- 現在、実物を観察できるのは、2施設のみ
 - 阿寒湖畔エコミュージアムセンター（環境省）
 - マリモ展示観察センター（釧路市）【チュウルイ島】

マリモ観察ガイドツアーの検討

○検討主体

マリモの保護と活用に関するプロジェクトチーム

○構成員

- ・阿寒観光汽船(株)
- ・阿寒湖漁業協同組合
- ・阿寒湖温泉旅館組合
- ・(有)阿寒ネイチャーセンター
- ・(有)広大
- ・(一財)前田一步園財団
- ・(一財)自然公園財団阿寒湖支部
- ・NPO法人阿寒湖のマリモ保護会
- ・NPO法人阿寒観光協会町づくり推進機構
- ・まりも倶楽部
- ・釧路市
- ・釧路市教育委員会【事務局】
- ・環境省阿寒摩周国立公園管理事務所【事務局】
- ・北海道釧路総合振興局【オブザーバー】



○検討スケジュール

・第1回(H29.7.20)

- ・PTの設置
- ・国立公園満喫プロジェクト
- ・普及啓発

・第2回(H29.10.16)

- ・ガイドツアーのあり方
- ・地域教育におけるマリモの活用

・第3回(H29.11.21)

- ・ガイドツアーのあり方(案)
- ・地域教育におけるマリモの活用

・第4回(H29.12予定)

- ・ガイドツアーのあり方
- ・地域教育におけるマリモの活用

マリモ観察ガイドツアーの検討

○想定される利用方法

(1) 陸路での利用(H30年度から試行)

- ・阿寒湖北岸の林道を活用
- ・上限1日10名程度
- ・マリモ生育地の湖岸までの利用

(2) 水路＋陸路での利用(H30年度から試行)

- ・チュウルイ島まで観光船利用
- ・そこから上陸用船舶に乗り換えて阿寒湖北岸に上陸
- ・マリモ生育地の湖岸までの利用

(3) 水路での利用(H30年度から実験開始)

- ・保護活動の一環として、水草除去活動等に寄与することを前提に、マリモ生育地まで船舶で乗り入れ

(4) 冬場の氷上利用(H30年度から試行)

- ・氷上をスノーモービル、スキー等で移動
- ・氷に穴を空け、氷上からマリモを観察

※ いずれもガイド同伴が必須

○検討課題

・保護のための資金確保

- ・ガイド料上乗せによる協力金
- ・マリモに関するお土産への上乗せ
- ・マリモファンクラブの設立、募金

・ガイド育成

- ・育成母体の検討
- ・育成教材の検討

・既存施設との役割分担

- ・阿寒湖畔エコミュージアムセンター
- ・マリモ展示観察センター

・水路での利用

- ・水草除去活動に資する船舶の開発
- ・利用する水域エリアの設定
- ・利用者の上限設定
- ・水草の刈取り、活用方法

川湯エコミュージアムセンターの民間開放



- ・環境省が平成11年4月に設置
- ・国立公園の東側に位置する川湯・屈斜路・摩周をフィールドとし、情報提供に加え、自然体験活動や環境学習の実施を通じて、人と人とのふれあいを促進
- ・年間利用者は約15,000人
- ・主な活動
 - ・自然とふれあう活動
 - ・情報発信
 - ・地域向け自然学習・活動等の支援
 - ・ボランティア活動の推進
 - ・地域社会との連携 等



川湯エコミュージアムセンターの民間開放

■川湯エコミュージアムセンターに求められているモノ

- 休憩機能

- くつろぎスペース、
コミュニティースペース（カフェスペース）

- 交流機能

- コミュニティースペース（カフェスペース）

- アクティビティ情報発信機能

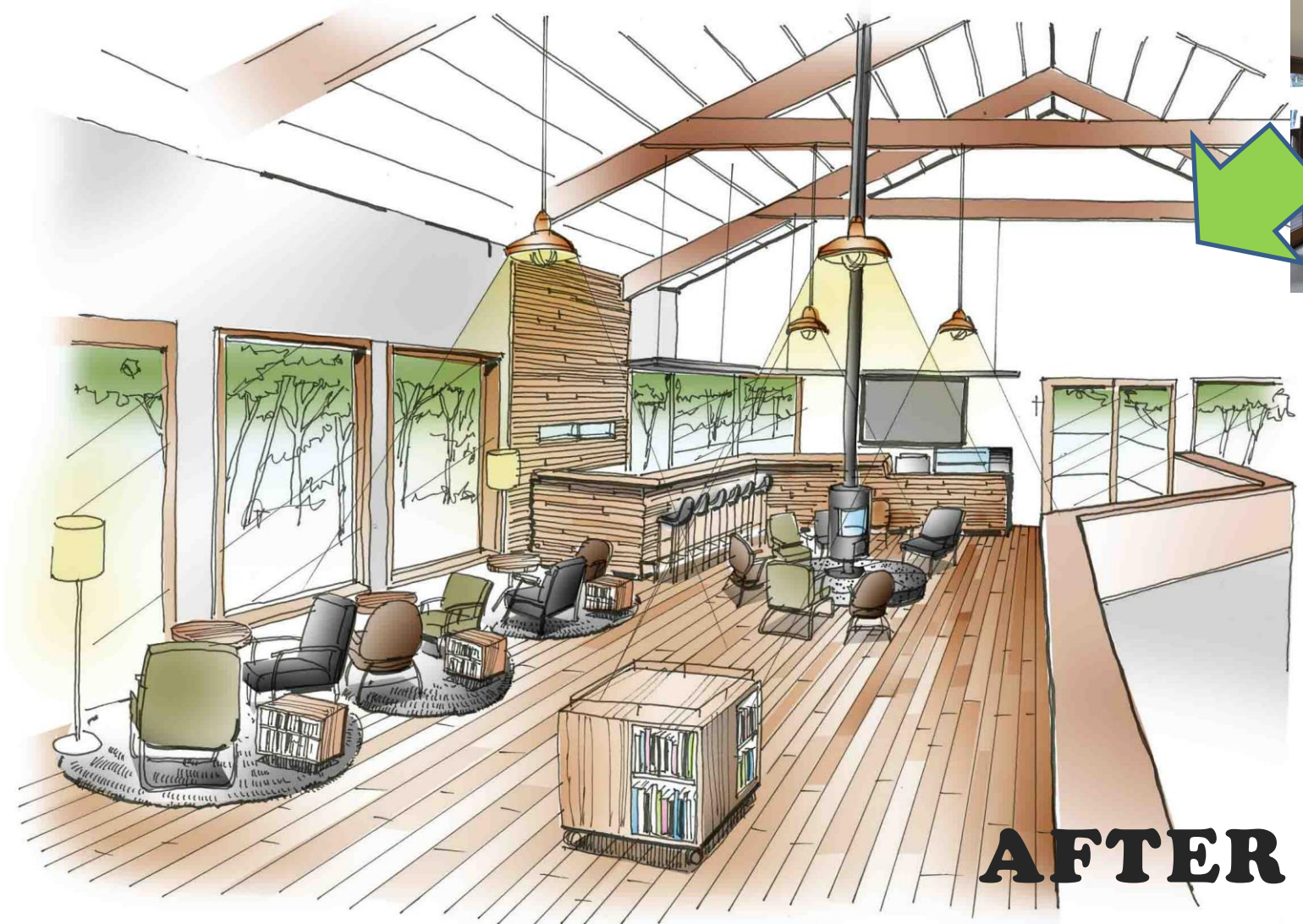
- ツアーデスク

- 外国人への情報提供機能

- Wi-Fi、多言語化（ICT活用）、標識デザイン統一

川湯エコミュージアムセンターの民間開放

コミュニティースペース(カフェスペース)のイメージ
(2018年 4月～)



BEFORE

AFTER

川湯エコミュージアムセンターの民間開放

コミュニティースペース 屋外デッキスペース イメージ(2019年4月～)



AFTER



BEFORE

川湯エコミュージアムセンターの民間開放

ツアーデスク開設イメージ (2018年4月～)



川湯エコミュージアムセンターの民間開放

2017年度「地元・関係者等との調整」

- 9月 弟子屈町との相談・調整開始
- 10月 環境省本省との調整
- 11月 川湯地域協議会との合意形成開始・住民説明会
弟子屈町図書館との調整開始
- 12月 川湯EMC改修工事着手
次年度試験的運用などの調整開始
- 2月 カフェのネーミング・ロゴなどの公募？
- 3月 川湯EMC改修工事完成（一部の残工事は翌年度）

2018年度「カフェスペースの試験的運用」

- 4月 お披露目（記者発表）
（ツアーデスク・多言語化も合わせて）
- 4月～ カフェスペース試験的運用、振り返り、公募条件整理
- 1月 コミュニティースペース（カフェ）事業者公募

2019年度「コミュニティースペース（カフェ）の本格的運営」

- 4月 カフェオープン

最後に ～国立公園全体の取組～

多言語化(ICT活用)について

- ・英語表記は日本語の翻訳ではなく、ネイティブのライターにより文章を新たに書き下ろす
- ・多言語化は、阿寒摩周国立公園広域観光協議会の11市町で合意形成したICTを活用したモバイルアプリ(ユニボイス)を採用

デザイン統一について

- ・平成29年6月30日に開催された阿寒地域・摩周地域合同部会においてアイヌ文様を板面に取り入れた統一的なデザインにより各事業者が今後の整備を進めていくことが合意



デザイン例